

# 2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社  
create coating solutions

2022年 8月8日

# 第1四半期 連結業績

単位：百万円

	2022.6	2021.6	前年同期比		2022.3	前四半期比	
	(1Q-FY22)	(1Q-FY21)	金額	増減率	(4Q-FY21)	金額	増減率
売上高	1,568	1,511	57	3.8%	1,688	▲ 120	▲ 7.1%
営業利益	16	▲ 21	37	-	▲ 107	123	-
(営業利益率)	1.0%	▲ 1.4%	-	-	▲ 6.3%	-	-
経常利益	97	▲ 7	104	-	▲ 24	121	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	94	▲ 9	103	-	▲ 46	140	-
1株あたり 四半期純利益 (円)	11.95	▲ 1.19	13.14	-	▲ 5.89	17.83	-
加工高	1,346	1,280	66	5.2%	1,414	▲ 68	▲ 4.8%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。  
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

# 財務概要

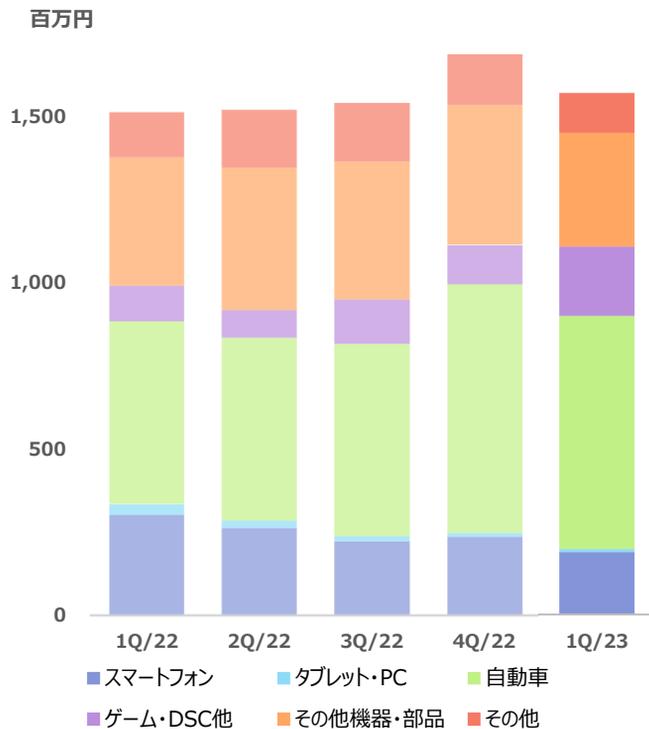
単位：百万円	2022.6	2022.3	増減
<b>流動資産</b>	13,443	13,867	▲ 424
現金・預金	5,654	6,012	▲ 358
受取手形・売掛金	5,255	5,594	▲ 339
棚卸資産	1,148	1,116	32
その他	1,384	1,144	240
<b>固定資産</b>	4,886	4,983	▲ 97
有形固定資産	2,848	2,865	▲ 17
無形固定資産	73	69	4
投資その他	1,964	2,047	▲ 83
<b>合計</b>	18,330	18,851	▲ 521

単位：百万円	2022.6	2022.3	増減
<b>負債</b>	7,804	8,452	▲ 648
支払手形・買掛金	4,783	4,879	▲ 96
借入金等	1,982	2,154	▲ 172
その他	1,038	1,417	▲ 379
<b>純資産</b>	10,526	10,398	128
株主資本	10,128	10,033	95
その他の包括利益 累計額	397	364	33
<b>合計</b>	18,330	18,851	▲ 521

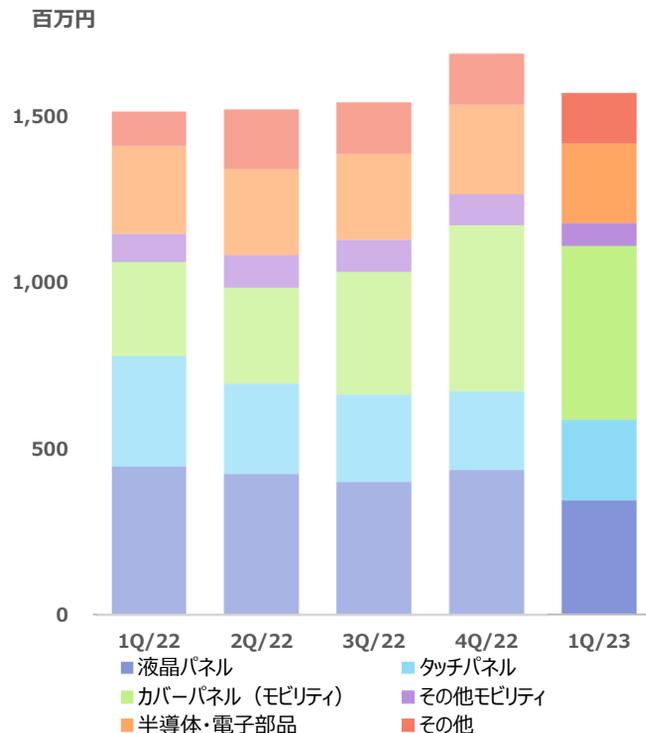
<b>自己資本比率</b>	57.4%	55.2%	2.3pt
<b>1株あたり純資産(円)</b>	1,330.71	1,314.56	16.15

# 四半期売上実績

## 最終製品別売上高推移



## 品目別売上高推移



# 2023年3月期 業績見通し

単位：百万円	2023/3					2022/3
	通期計画	H 1 計画	H 2 計画	前期比		実績
				増減額	増減率	
売上高	5,760	2,950	2,810	▲ 499	▲8.0%	6,259
営業利益	▲ 600	▲ 220	▲ 380	▲ 481	-	▲ 119
営業利益率	▲10.4%	▲7.3%	▲13.9%	-	-	▲1.9%
経常利益	▲ 520	▲ 180	▲ 340	▲ 519	-	▲ 1
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 534	▲ 187	▲ 347	▲ 454	-	▲ 80

加工高	4,710	2,520	2,190	▲ 576	▲10.9%	5,286
研究開発費	300	-	-	6	2.0%	294
設備投資額	672	-	-	▲ 597	▲47.0%	1,269
減価償却費	450	-	-	220	95.7%	230

注) 当第1四半期連結累計期間の業績は想定を上回って推移しておりますが、第2四半期以降の事業環境は依然不透明であること、吉奥馬科技（無錫）有限公司が連結対象から外れる影響等、当社の業績予想についてはあらためて精査が必要であることから、現時点据え置きとさせていただきます。

今後開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

## 1. 営業外収益の計上

### ① 為替差益

2023年3月期第1四半期累計期間において、為替相場の変動により営業外収益に為替差益66百万円を計上いたします。これは主に当社グループが保有する外貨建資産に対し、為替相場が前期末と比較し円安に推移したことにより発生したものであります。

## 2. 重要な後発事象

### ① 連結子会社の異動を伴う出資持分の譲渡

当社は、2022年8月4日開催の取締役会において、連結子会社である吉奥馬科技（無錫）有限公司の全出資持分を廈門鐸龍投資管理有限公司へ譲渡することを決議し、同日付で持分譲渡契約を締結し、2022年8月8日に譲渡を実行しました。本持分譲渡により、吉奥馬科技（無錫）有限公司は当社の連結子会社ではなくなります。

## ① 成膜加工QCDT（quality, cost, delivery, technology）の更なる強化

当社グループの基幹事業における有望市場の変遷やサプライチェーンの統合・再編による競合環境に加え、昨今のパンデミック・地政学的影響による環境変化にも対応すべく、成膜専業メーカーとしてのQCDT強化を図ってまいります。

- モノづくり戦略見直しの一環として、各製造拠点での製造品目特性に則した品質ロスコストの低減と歩留り改善、自動化及びIT化による工程作業効率や装置設備の使用効率改善によって、品質と生産性の更なる向上を継続して進めております。
- 急激な市況変化やサプライチェーンの混乱による需給変動にも柔軟に対応すべく、顧客との先行情報共有や自社内プロセスの短縮に加えて、調達や加工工程の複線化にも取り組んでおります。
- 商材カテゴリー毎に細分化した職能横断的なタスクフォースを展開し、個々の商材ニーズの発掘や創出と、ニーズに則した競争力の向上に取り組んでおります。

## ② 特定市場への過度な依存からの脱皮

従来の当社主要市場であるスマートフォン用中小型FPD市場では、液晶パネル関連需要の減速と有機ELパネルへの移行が加速しているため、特定市場への過度な依存から脱皮し、成長分野へと事業領域拡張を進めております。

- 成長性を見込む対象市場を、ディスプレイ・モビリティ・半導体及び電子部品関連の3分野に設定して分野別対応策や体制再編を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換に取り組んでおります。
- 研究開発部門では先行技術の開発に、製造技術部門では既存技術の応用や製法の多角化に各々注力すると同時に、相互連携を強化して成長を支えるコア技術の創出に取り組んでおります。
- これまでの部分工程受託で培った、技術や製造ノウハウ・装置調整や工程及び設備設計といった「匠」のコンサルティングも事業商材と位置付け、協業も積極的に活用することで新たなビジネスモデルの拡張に取り組んでおります。

## ③ 経営体質の更なる強化

上述のような、既存分野と新規分野における事業成長の直接的な取り組みと同時に、経営体質の強化も進めております。

働き方の見直しによる管理間接費のムダ取りと回収進捗の可視化による投資効果の見極めにより、経営効果に直結する支出管理の徹底に取り組んでおります。

- 「2025年の崖」リスクの回避に向け、基幹ITシステムの置換と併せ各種データのデジタル化及び共有活用とBI化といったDXを進めると同時に、関連業務自体の見直しで経営の効率化に取り組んでおります。
- また、前述の全ての対策効果を最大化するために、現場での意識改革を主眼とする
- 全従業員参加型の企業風土改革プロジェクトを並行して推進しております。

## ・ 情報提供の目的

当サイトの目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。掲載されている情報は、インターネット上で簡便にご参照いただくために作成されたものです。当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当サイトのご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

## ・ 将来予測に関する考え方

当サイトに掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。

## ・ 投資判断に対する考え方

投資に関する最終的なご決定は、当サイトの情報に全面的に依存することはお控え頂き、ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。

## ・ 情報内容変更等の可能性

当サイトまたは当サイト上のコンテンツは、予告なく変更、修正、削除、中断することがあります。当社は、サイトに掲載された情報を更新する義務を負うものではなく、その約束をするものではありません。当サイトのいかなる情報についても、常に最新情報に反映されるものでないことをご了承ください。